

3

丘珠空港の担う役割と 取り巻く環境の変化

■ **担う役割** 北海道の中心都市であり、全国でも有数の人口を有する札幌市の市街地に位置する丘珠空港は、その利便性の高さから多くの役割を担う潜在力の大きな空港です。

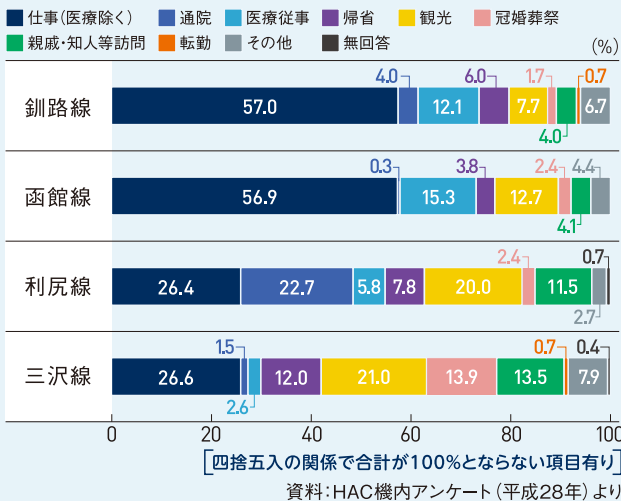


① 道内航空ネットワークの拠点空港

札幌市と道内各地方を結び、北海道のビジネスや医療従事、通院、帰省等、社会生活にとって重要な路線を有する空港として、また、観光利用や災害時の移手段の一部を受け持つ空港としての役割を担っています。

丘珠空港を発着する路線の利用目的

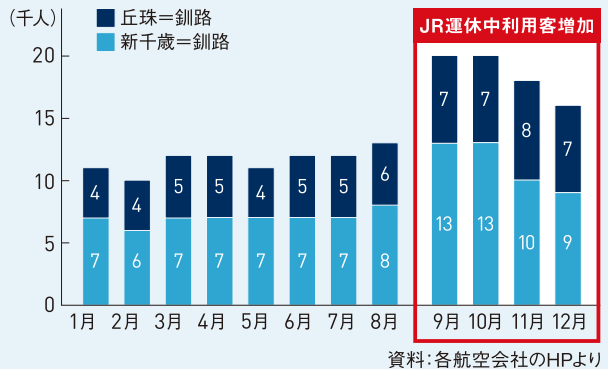
▶ 仕事のほか、通院・医療従事などの生活面での利用が多い



2016年8月の大型台風による JRの被害に伴う釧路線の航空旅客増加

▶ 代替経路として活躍

丘珠空港及び新千歳空港の 2016年の釧路線の乗客数推移



② 道外とも路線を結ぶ都市型空港

札幌市と道外の空港を直接結ぶ路線を有し、交流人口を増やすことにより両地域の活力を高めるための交流基盤となる交通結節点としての役割を担っています。



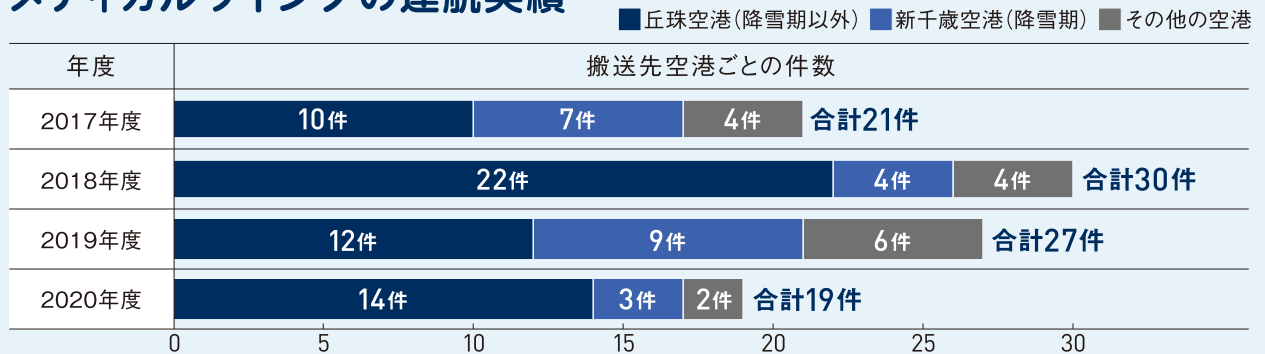
③道内医療を支える空港

札幌市内の医療関係者が地域医療に従事する際や、離島などの医療過疎地から札幌市への通院時の移動手段となるなど、道内医療を支える空港としての役割を担っています。さらに、平成29年度(2017年度)から道内で事業化されている医療ジェット(メディカルウイング)が丘珠空港でも運用されています。

メディカルウイングとは

地域の医療機関では提供できない高度・専門的医療を必要とする患者を医師による継続した医学的管理の下、高度・専門的医療機関へ計画的に搬送する固定翼機。北海道により平成29年度(2017年度)から事業化。搬送可能距離が長いので遠方の道内空港からでも1時間以内に安定した運航で丘珠空港へ患者を搬送することが可能。なお、現行の滑走路長では降雪期の運用ができないため、新千歳空港から陸路で札幌市内の病院へ搬送している。

メディカルウイングの運航実績



※搬送先が新千歳空港のケースでは、新千歳空港から陸路で札幌市内の病院へ搬送している。

④防災機能を持つ空港

自衛隊が管理する共用空港であり、北海道の消防防災ヘリコプターの拠点となっている防災機能を持つ空港です。災害時の応援受援の拠点空港として、また、他の交通機関が被災した場合の航空輸送の一部を受け持つ空港としての役割を担っています。

2018年
北海道
胆振東部地震
≫ 災害時の
応援受援拠点



写真:北海道防災航空室提供

⑤ビジネスジェット機利用に対応する空港

ビジネスジェット機によるビジネスや観光での利用に対応する空港としての役割を担っています。



写真:朝日航洋提供

⑥報道・測量等で利用する小型航空機基地空港

道内における報道・測量や各種施設の維持・点検等の業務を目的とする小型航空機の基地空港としての役割を担っています。



写真:北海道航空提供

■ 取り巻く環境の変化

空港を取り巻く環境は、空港運営の民間委託、首都圏空港の国際競争力の強化等、ここ10数年で大きく変わってきており、これからも変化し続けると考えられます。また、現在、新型コロナウイルスの感染拡大により、航空業界は多大な影響を受けているため、今後変化していく航空需要や多様なニーズに応じた空港の在り方が求められます。

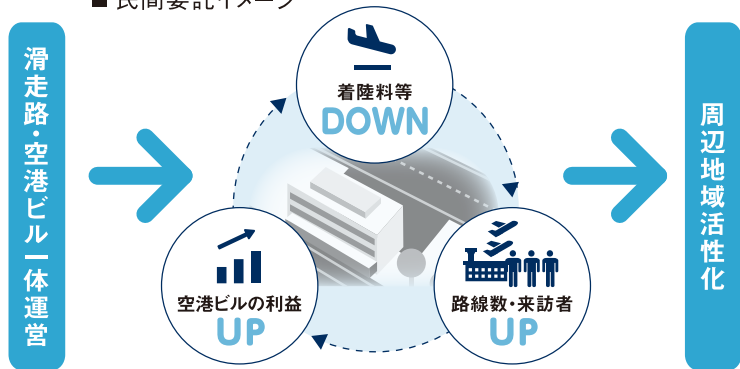
■ 道内7空港の運営の一括民間委託

民間の知恵やノウハウを活用して北海道全体の観光振興・地域の活性化を図るため、道内7空港(新千歳、函館、釧路、稚内、女満別、旭川、帯広)の運営が北海道エアポート株式会社に委託されました。7空港全体の年間旅客数(国内線・国際線の合計)について、平成29年度(2017年度)の2,846万人から概ね30年後となる令和31年度(2049年度)には4,584万人にするという目標を掲げています。

■ 一括民間委託された7空港



■ 民間委託イメージ



資料:国土交通省航空局 北海道内空港のこれから～民間委託で空港が変わります～ より作成

環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

北海道への観光客増加が見込まれることから、札幌を拠点とした周遊観光など、丘珠空港利用者数の増加につながる機会となります。

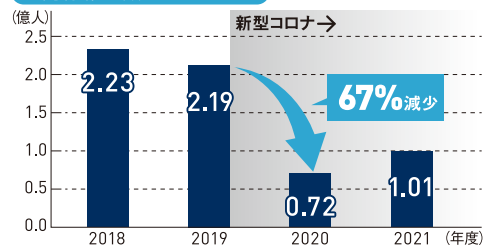
■ 新型コロナウイルスの感染拡大

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度(2020年度)の国内90空港全体の国内線旅客数は前年比約67%の減少となっています。一方、丘珠空港は前年比約39%の減少にとどまっており、他の空港と比べビジネスや医療面等での利用が多い丘珠空港には底堅い需要があると考えます。なお、世界の航空会社で構成される国際航空運送協会(IATA)の航空旅客需要に関する予測では、国内線は令和4年(2022年)に、国際線は令和6年(2024年)にはほぼ新型コロナウイルスの影響を受ける前の水準に戻ると見込まれています。

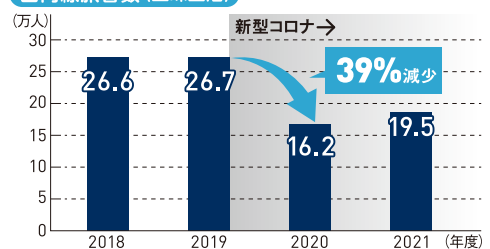
環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

感染防止意識の高まりにより、リージョナルジェット機やビジネスジェット機などの小型機の需要が増えていくことが想定されるため、丘珠空港が小型機メインの空港として、ニーズの多様化に対応することが求められます。

国内線旅客数(国内90空港)



国内線旅客数(丘珠空港)



資料:空港管理状況調査(2021年度は東京航空局、大阪航空局による速報値)

■ 北海道新幹線の札幌開業

令和12年度(2030年度)末には北海道新幹線札幌開業が予定されています。想定される丘珠空港への影響として、次のような変化が見込まれます。

- ▶ 札幌開業後、北海道と東北の移動手段として丘珠空港・新千歳空港と函館及び東北を結ぶ空路の利用客数が減少し、新幹線の利用割合が航空機を超える。
- ▶ 丘珠—函館路線の存続は、離島路線である函館—奥尻路線の運航にも影響を与える。



写真：JRTT鉄道・運輸機構提供

一方、現在は札幌と道南、道北、道東の各地域への移動時間に大きな差はありませんが、新幹線の札幌開業により道南と札幌間の移動時間だけが縮まることになります。

環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

全道的な均衡ある発展のため、丘珠空港を中心とした道内航空ネットワークの充実が求められます。

■ JR北海道の事業範囲見直し

JR北海道全線のうち約半分がJR北海道単独で維持することが困難な路線とされています。

環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

札幌と地方を結ぶ長距離輸送手段として、丘珠空港の重要性が高まります。

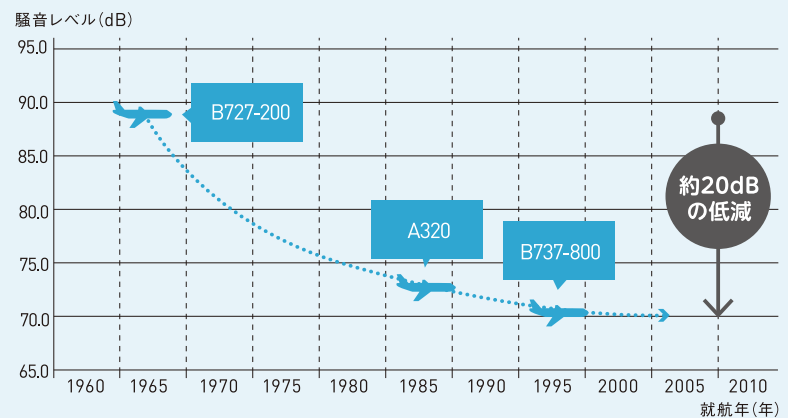
■ 航空機の低騒音化

航空機の性能向上によってその騒音レベルは全体として低下傾向にあり、右図に示すとおり、1960年代後半から著しく低騒音化されています。

環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

騒音レベルを抑えた航空機で、騒音の環境基準の範囲内でもより多くの便数での運用が可能となります。

■ 航空機の就航年と騒音レベルの関係



B727-200	座席数：178席 全幅：32.9m 全長：46.7m	A320	座席数：180席 全幅：34.1m 全長：37.6m	B737-800	座席数：177席 全幅：34.4m 全長：39.5m
----------	----------------------------------	------	----------------------------------	----------	----------------------------------

※騒音レベル(dB)は、機体違いによる性能水準の比較のために用いたものであり、実測値とは異なります(騒音証明時の空港近傍離陸測定点における騒音値(L_{EPNL})を近似式によりL_A[dB]に変換したものを基に国土交通省作成)。

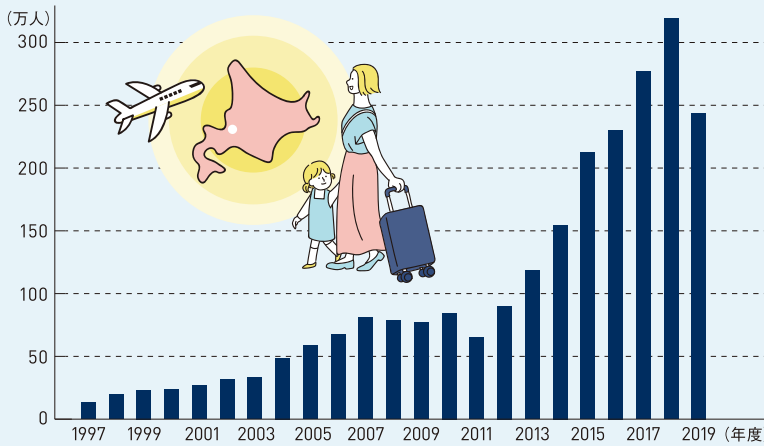
資料：国土交通省ホームページ「羽田空港のこれから～騒音の影響について～」より作成

■ インバウンドの増加

北海道を訪れる外国人旅行者数はここ10数年で大きく増加しており、平成30年度(2018年度)には約310万人に達しています。宿泊地は道央圏、特に札幌が多く、地域的な偏在傾向が見られます。

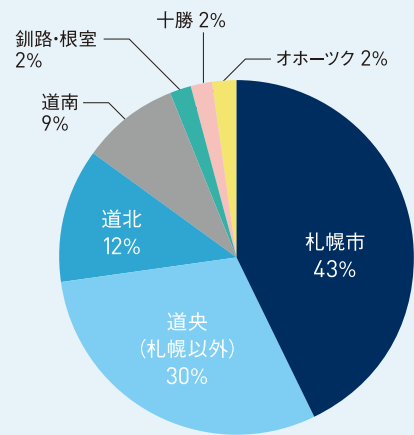
なお、新型コロナウイルスの感染拡大により、一時的にインバウンド需要が激減していますが、「新型コロナウイルスの感染拡大(P10)」に記載のとおり、国際線の航空旅客需要は令和6年(2024年)にはほぼコロナ禍前の水準に戻ると見込まれています。

■ 来道外国人の推移



資料: 北海道経済部 北海道観光入込客数調査報告書より作成

■ インバウンド宿泊地の割合



環境の変化を踏まえた丘珠空港活用の可能性

外国人観光客が札幌を拠点とした道内周遊観光を行うための交通手段として、丘珠空港発着の道内路線の需要の高まりが見込まれます。

■ 丘珠空港に求められる対応

丘珠空港の底堅い需要

- ▶ 航空会社の撤退等を受け、平成23年度(2011年度)には旅客数が約13万人まで落ち込んだものの、その後の道内路線の好調や、新たな航空会社が道外との定期便を就航したこと等から、年々旅客数を伸ばし、令和元年度(2019年度)には約27万人となっています。
- ▶ また、10ページに記載のとおり、コロナ禍においても、国内他空港に比べその影響が小さいものとなっており、底堅い需要があります。

丘珠空港の潜在的な需要

- ▶ 道内外の空港関係者や空港立地自治体へのヒアリングにおいては、丘珠空港への路線展開のニーズが多くあり、全国でも有数の人口を有する札幌市の市街地に位置する丘珠空港は潜在的な需要が高いと考えられます。

丘珠空港が担う幅広い役割

- ▶ 8ページに記載のとおり、丘珠空港はビジネス利用・観光等による経済活性化への寄与や、防災・医療等を支える市民・道民の社会生活にとって重要な路線を有しており、北海道・札幌市において幅広い役割を担っています。



上記を踏まえ、近年の取り巻く環境の大きな変化に対応しつつ、少子高齢化・人口減少が見込まれる中でも、北海道全体の発展に貢献するため、丘珠空港の役割をより一層果たしていくことが求められます。しかし、現状ではリージョナルジェット機が通年で運航できない等の課題があり、丘珠空港のポテンシャルを最大限発揮するためにも、空港機能の強化が必要です。